

## 目的

- ・小学校教員及び中学校、高等学校英語教員の英語力、英語指導力の向上
- ・「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標を活用した小・中・高等学校における指導と評価の改善

## 取組の内容

- グローバル化に対応した外国語教育研修
  - ・英語教育推進リーダーを活用した英語指導力向上のための研修
  - ・公立の小・中・高等学校教員は原則として平成29年度までに受講
- 英語教員等の英語力向上研修及び英語力確認テスト
  - ・英語教員等に2日間の英語集中研修(今年度から1日のみ参加も可能とした)+自己研修
  - 外部検定試験団体受検(平成28年度から県教委主催で実施)
- 「CAN-DOリスト」を活用した外国語教育推進のための地域・学校別研修
  - ・全ての中・高等学校で「CAN-DOリスト」を作成、活用
  - ・実際の授業等と関連づけた研修を研修協力校で実施

## 成果③

◎英語教育推進リーダーを活用した研修について、平成29年度までに必修的对象者が受講

年度	27	28	29	30	合計
小学校	28	93	93	27	241
中学校	35	73	88	29	225
高等学校	16	39	104	12	171

## 成果①

◎県内の全ての公立中学校・高等学校で「CAN-DO」リストの形で学習到達目標を設定

「CAN-DO」リストの形で学習到達目標を設定している中学校と高等学校(学科)の割合

H27~30 100%

## 成果②

◎受講者のうち、一定の割合で外部検定試験において英検準1級以上程度と認められる結果を取得

◆受講者のうち、外部検定試験の結果により英検準1級程度以上取得の割合  
 H27 41%      H28 25%  
 H29 受検者なし    H30 受検予定

◎県教委主催の「英語力確認テスト」を実施

◆テスト受検者のうちCEFR-B2以上と認められる者の割合  
 H28 100%    H29 90%  
 H30 100%

## 今後の課題・方向性

- ①中・高で、生徒の言語活動の割合及び教員の英語使用率を向上
  - ・上記成果③を着実に進め、イメージの共有化
  - ・ALTの研修等も活用し、広く普及させる
- ②小学校での外国語教育の推進
  - ・上記成果③を着実に進めるとともに、校内研修や地域・学校別研修等を促進
  - ・「英語教員等の英語力向上研修」の内容の刷新と積極的な情報発信
- ③英語教員等の英検準1級程度以上取得率の向上
  - ・左記成果②をさらに進める。
  - ・県教育委員会主催「英語力確認テスト」の拡充
- ④「CAN-DOリスト」の活用促進
  - ・地域・学校別研修をさらに推進

## 平成30年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～浜田市立第一中学校～

### 現状の課題と課題解決のための手立て

- ・学力差のある集団に対する一斉授業 → TTによる授業, 帯活動やワークシートの工夫
- ・学年が上がるにつれて「英語を使った活動や授業が好き」半減 → 意欲や自信を継続するための活動を工夫
- ・英検 → 文部科学省・浜田市からの助成制度・年間予定について保護者に対しても周知

### 具体の取組の内容

- ・Monthly Song
- ・年度当初に行った生徒アンケートの結果に基づいて、活動を工夫  
会話で使用する基礎的英語表現を強化するための帯活動「すらすら英会話」  
→パフォーマンステストで検証
- ・英検についての情報を各クラスで提供 3級の2次対策としての面接練習を英語科5人態勢で実施(昼休み, 放課後)



### 成果①

- ・1学期末パフォーマンステスト  
ALTとのQ&A  
Yes/No+1~2文 70%超
- ・「すらすら英会話」役に立った  
96%
- ・英検受検者数・合格者数の増加

### 成果②

- ・チャイム前着席
- ・活動に慣れ, 既習表現を使って堂々と  
会話活動をする様子が見られる
- ・意欲的にパフォーマンステストに臨む姿
- ・生徒の自己評価  
自然なあいづち, アイコンタクト
- ・保護者からの声

### 今後の課題・方向性

- ・個の学力に応じた指導支援
- ・よりオーセンティックな学習を目指す
- ・「すらすら英会話」の継続と「Small Talk」の試み
- ・会話パターン学習 → 表現の幅を広げる

## 英検受検者数・合格者数の比較

浜田市立第一中学校

受検/合格者数	5級		4級		3級		準2級		2級		準1級	
	受	合	受	合	受	合	受	合	受	合	受	合
2017年度	12	12	22	22	26	20	3	0	2	1	1	1
2018年度	5	5	5	5	36	30	1	1	0	0	0	0
〃 3回	14		16		11		0		1		1	
2018年度計	19	(5)	21	(5)	47	(30)	1	(1)	1	(0)	1	(0)

2017年度 受検者数 66名 うち 合格者数 56名  
 2018年度 受検者数 90名 うち 合格者数 41名 (※43名は第3回で受検予定)

# 平成27～30年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～雲南市立吉田中学校～

## 現状の課題と課題解決のための手立て

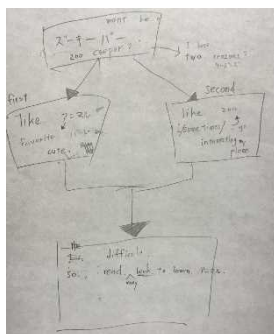
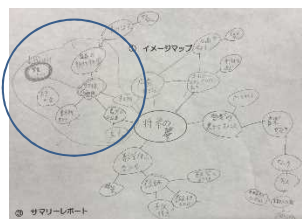
- ・生徒の「話す技能」向上のための授業改善 → スピーチ活動(まとまりのある文章構成で話す)の工夫と高度化を図る

## 具体の取組の内容

**取組① 原稿を作成せず、構成メモだけを見ながらスピーチする。**

テーマ:「将来の夢」

1. イメージマップの線につながっているトピックを選択する。
2. スピーチ構成メモを作成する。  
(キーワードのみ記入)
3. スピーチ構成メモだけを見てスピーチする。
4. やり取りを行う。



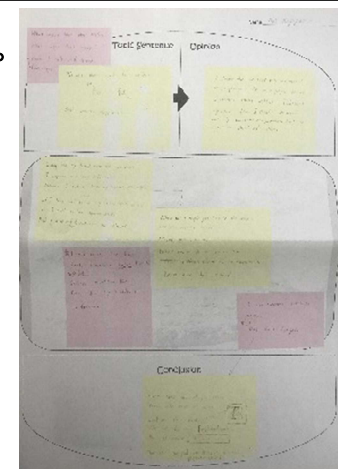
5. サマリーレポート  
(話した内容のまとめ)を書き、言語の正確性を高める

**取組② 前もって原稿を準備してからスピーチする。**

テーマ:「福祉学習を通して学んだこと」

(視覚障がい者の話を聞く アイマスク体験など)

1. 総合的な学習の時間で行う福祉に関する学習や体験のあと、自分の思いや意見などを付せんに書き留める。
2. 文章構成を学ぶ Topic sentence → opinion → Body (reason, experience, example, suggestion) → conclusion
3. 付せんに並べ替え、文を付け加えたり、つながりを編集したりして、文章を構成する。(原稿作成)
4. スピーチする



## 成果①

県と比較して、外国語表現の能力が高く、中学3年生の英検3級合格者の割合が増加した

### H29 中学1年生の学力の概要 (H29県学力調査より)

吉田中学校	全問	リスニング	語形・語法 語彙	長文 読解	単語の 並べ替え	対話の中の 英作文	条件付き 英作文	英検3級 合格者数	中学3年生に 対する割合
対県平均比	144.9	113.4	129.3	155.9	202.8	329.0	360.8		
平均正答率 吉田中(73.2%) 島根県(50.6%)									
H26	2名	25.0%							
H27	5名	36.4%							
H28	6名 (1名は準2級)	54.0%							
H29	6名 (1名は準2級)	60.0%							

## 成果②

英語学習への意識の高まりが見られた

		H30年度2年生 2年間(H29-H30)		H29年度卒業生 3年間(H27-H29)			
		吉田中		吉田中	県	市	
英語の勉強は好きだ	1年	H29	80.0	H27	77.8	65.7	62.5
	2年	H30	90.0	H28	80.0	58.4	55.4
	3年	-	-	H29	70.0	-	-
英語の授業の内容はよく分かる	1年	H29	90.0	H27	77.8	65.6	69.2
	2年	H30	90.0	H28	80.0	62.3	55.4
	3年	-	-	H29	80.0	-	-
英語の授業では、自分の気持ちや考えを英語で伝え合う活動をよくしている	1年	H29	90.0	H27	55.6	31.7	22.8
	2年	H30	100.0	H28	100.0	67.3	65.4
	3年	-	-	H29	100.0	-	-

## 今後の課題・方向性

本校の生徒の「外国語表現の能力」は県と比較すると高いが、他の観点と比較すると十分とは言えない。授業改善を継続して行い、英語学習への高い意欲を維持しながら、さらに外国語表現の能力を高めていく必要がある。

# 平成30年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～島根県立松江北高等学校～

## 目的

- ・授業力の向上と4技能のバランスのとれた指導ノウハウの蓄積
- ・生徒の英語学力のバランスのとれた育成

## 取組の内容

- 共同授業立案を通じた校内研修機会の確保  
第1・2学年コミュニケーション英語を中心に毎時間共同立案  
CAN-DOリストに照らし学習内容を精選  
膨大な研修機会の確保、相互のノウハウの共有
- 生徒に外部検定試験の受検を推奨  
入学直後より「プロジェクト英検」による意識づけ  
4技能のバランスを意識した学習の推進  
スピーキング指導機会の確保

## 成果③

- 話す・書く活動への生徒の積極的参加  
言語活動のうち、アウトプットにつながる活動に積極的に取り組む生徒が増えた  
ペアワークの活用もあり、発話への心理的障壁が取り除かれている様子がうかがえる
- 授業内容の共同立案による「やりやすさ」  
共同授業設計により、ほぼ毎時間何らかの生徒のアウトプット活動の機会が設定されている  
定期試験の内容の公平化公正化  
目標の明確化による授業立案・実施困難の軽減

## 成果①

- 全国テストにおける上位層の増加  
H29年度入学生の成績分布推移

全国偏差	1年7月	1年11月	1年1月	2年7月
74-	8	13	12	21
64-	45	36	54	54
54-	107	112	112	106
50-	46	49	37	36
46	23	19	15	18

## 成果②

- 英検受検者の爆発的増加  
全校での、のべ受検者数年度別推移

年度	H25	H26	H27	H28	H29
受検者数	141	181	195	374	489

入学年度別生徒数に占める受検者の割合

年度	H25	H26	H27	H28	H29
受検者数	0.45	0.56	0.75	1.02	1.03

- 低年次での英検準1級取得者出現  
H29年度第1回で2名の2年生が準1級取得に成功

## 今後の課題・方向性

- ①学校全体の「授業改善」との連携
  - ・教科会・担当者会のさらなる活用
  - ・他教科からの指導助言
- ②現実的・適正かつ効果的な評価法の模索
  - ・アウトプットの正確性を測る機会を増加させる現実的な方法
  - ・「型通りでない論理性」獲得のための指導方策
- ③利用する技能検定の精選または拡大
  - ・個々の試験の特長を踏まえ、生徒の内発的動機づけとなり英語運用能力向上に結びつく検定を追求

現状の課題と課題解決のための手立て

- ①指導の平準化・・・各教科、科目担当での指導の方向性のさらなる共通理解を進める。シラバスの活用を進める
- ②知識・技能から思考・判断・表現へとつなげる指導・・・Practiceで終わらない授業を展開していく
- ③校内の試験の改善・・・和訳を求めることをベースとした試験を改善し、タスクを意識した問題作成に努める

取組の内容

- 英語キャンプ(1年次)  
GTEC受験を意識した集中訓練(表現、リスニング)  
外部(県内ALT、県立大教員、民間英語学校)より外国人教員
- GTEC受験(1・2年全員受験)、英検の受験の推奨  
4技能のバランスを意識した学習の推進  
スピーキング試験を体験
- ICTを活用した授業研究  
デジタル教材を用いた効率的な授業の実践
- 目標の科内共有、授業改善のための研修機会の確保  
CAN-DOリストを意識した授業  
積極的な広域での授業公開による他校教員との意見交換  
・・・H29年度高英研県大会、H30年度高英研浜田地区大会

成果③

- 日頃の英語学習への評価、取り組み
- 全校生徒への授業アンケート結果 (5段階評価)  
(生徒が)意欲的に取り組んでいる 4.5 英語という科目への興味 4.3  
授業がよく理解できるか 4.3 わかりやすい授業になる工夫あり 4.4  
(生徒が)積極的に学ぼうとする工夫 4.4
- 英語学習へのモチベーション向上  
英語キャンプでのアンケート結果(4段階評価)  
今後の英語学習へのやる気↑ 3.3 普段の授業の大切さ実感↑ 3.4  
英語でのコミュニケーションに興味↑ 3.2

成果①

- GTECでの表現技能での成果  
1年の約90%の生徒がライティングでGrade3以上
- 1年の約86%の生徒がスピーキングでGrade3以上  
特に自分の意見、その理由を述べる問題で成果

成果②

- 英検受検者の増加  
2016年 102名  
2017年 132名  
2018年 96名(第2回まで)
- 1次合格者の2次合格率は90%～100%で推移

今後の課題・方向性

- ① CAN-DOリストにある指標を科内共通の到達目標としてさらに徹底を図る。  
・・・指導の平準化
- ②英語キャンプ(1年次)の今後の展開、日々の授業との関連性
- ③GTEC(4技能)の推移をいかに把握し、対応していくのか  
・・・H30年度より1・2年は年1回の学年全員受験  
・・・1年Grade2以下の生徒(R 60%、L 70%)への対応
- ④タスクを意識した言語活動、定期試験改善  
・・・新テスト受験に向けての指導改善

## English Campに参加した生徒の感想より

- 苦労したことはいろいろあったけど楽しかったことの方が多かったと思う。コミュニケーションの大切さに改めて気づかされた。
- 今回の英語キャンプを通じて、英語の大切さを改めて知ることができました。将来、自分がどんな職業についても英語は欠かせないと思うし、もっと外国人とコミュニケーションをとりたいと思いました。
- GTECのスピーキングテストでそれまでの2日間で学んだことがいかせてよかった。